

空土ファーム生きもの調査 9月報告書

1. 調査の概要

1) 調査の目的

山梨県北杜市須玉町増富地域にある空土ファームの耕作放棄地を再耕作することにより、生物多様性がどのように変化するか、周辺環境も含め調査を実施する。また、その調査結果をもとに、一般向け自然観察会の実施や、ハンドブック作成も視野に入れる。

2) 調査方法

①調査レベル：主任研究員クラスによる現地調査

②調査地：山梨県北杜市須玉町増富地区「空土ファーム」とその周辺緑地（図-1）

なお、今回の調査では、4カ所の調査地点を設定し、確認された生きものはどの調査地点で確認されたかを記録した。

③調査対象：鳥類、チョウ・トンボ・バッタ類等の大型昆虫類を中心に、姿・声・行動等を確認すると共に写真撮影を行う。両生類、は虫類、ほ乳類等は適宜調査する。

④調査日程：2018年9月23日 12:00～16:00
2018年9月24日 9:00～16:00

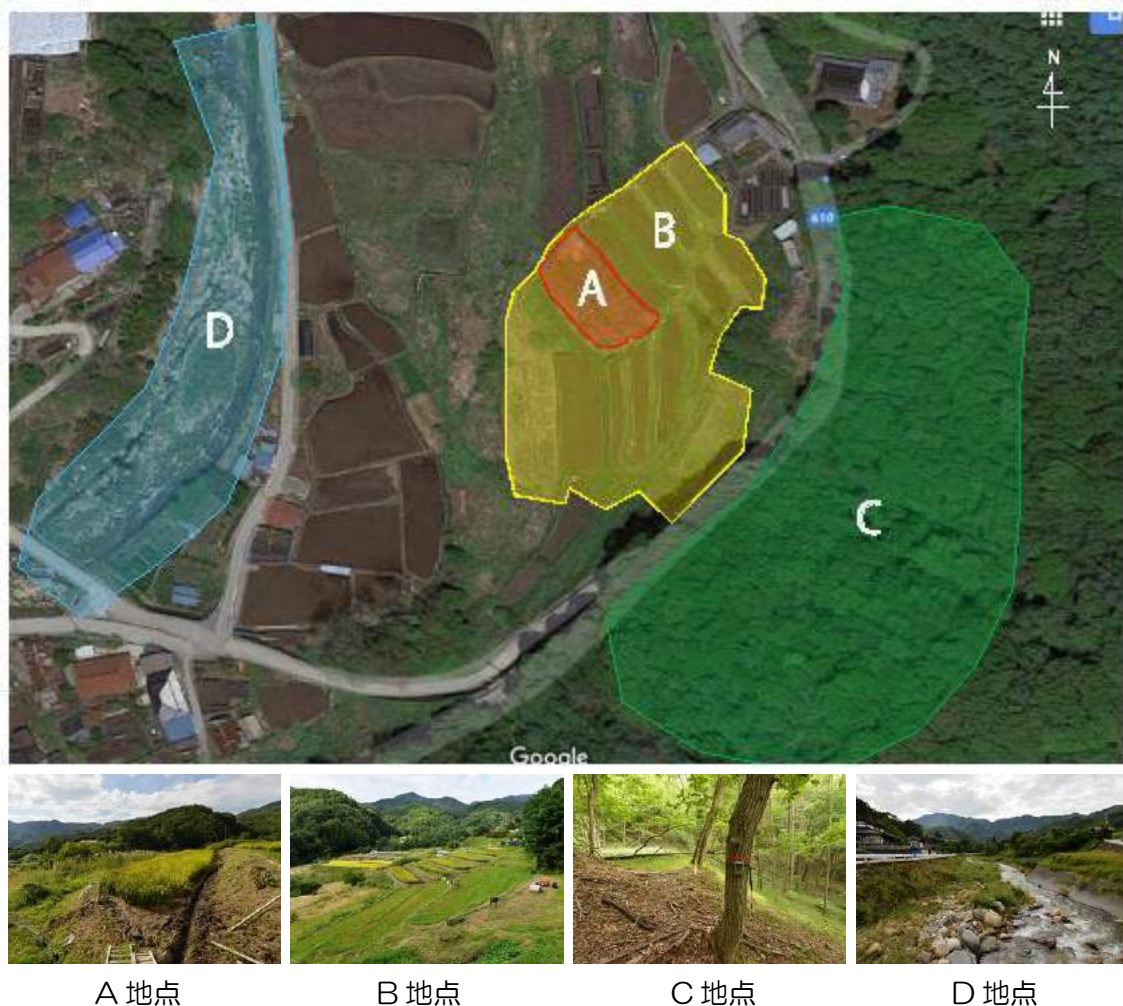


図-1 調査地全景および調査地点

2. ビオトープ池、自動撮影装置の設置

1) ビオトープ池の設置

9月23日に、B地点の休耕田の一角に、水生昆虫や両生類のすみかとなる、ビオトープ池を創出した(図-2～図-4)。これは秋から冬にかけて、田んぼの水が抜かれて水辺が減少するので、その間、野生生物が利用できる水辺環境を創出することを目的としている。また、春先にはカエルなどの両生類の産卵場所としての利用も期待される。



図-2. 施工前全景



図-3. 施工風景



図-4. 施工後全景

2) 自動撮影装置の設置

前回の調査（8月17日）の際に、C地点に自動撮影装置を設置し、夜間に活動する哺乳類などの記録を行った（図-5）。なお、今回の調査ではニホンジカ、ニホンザル、ニホンイノシシ、ホンドタヌキ、ニホンリスの5種の哺乳類を記録することが出来た（図-6）。



図-5. 設置された自動撮影装置の様子



ニホンジカ



ホンドタヌキ



ニホンザル

図-6. 自動撮影装置で記録された生きもの

3. 空土ファームで見られた生きものたち

1) 空土ファーム 生きものピックアップ

ヤマカガシ (D 地点) : あまり知られていない毒ヘビ

ヤマカガシは、おもにカエルを捕食するヘビの仲間のため、田んぼのそばで見られます。今回の調査では、空土ファームのすぐ横を流れる塩川の川沿いで記録されました。このヤマカガシはカエルが減少している東京都 23 区内では絶滅危惧 I A 類に指定されるなど、都市部では減少しています。ちなみにこのヤマカガシはマムシを上回る毒を持っているとされますが、おとなしいヘビのため、ちょっかいを出さなければまず噛まれることはありません。もし見かけてもそっと見守ってください。



ヤマカガシ

2) 各調査地で見られた生きものたち



ホソミイトトンボ (C 地点)

透明度の高い水がある水辺を好みます。森の中の草地で見つかりました。



コバナササキリ (B 地点)

湿った場所を好みます。B 地点の休耕田の草地で見られました。



ウラナミシジミ (D 地点)

夏期によく見られるようになるチョウで、幼虫の食草であるマメ科の花によく飛来します。



ツمامラサキセイボウ (D 地点)

ドロバチやトックリバチなど、他のハチの仲間に寄生するハチです。



ヒバカリ (B 地点)

小さな魚やオタマジャクシなどを捕食します。B 地点の田んぼのそばで見られました。



ヤマガラ (C 地点)

エゴノミの実などを好む野鳥です。シジュウカラなど他の鳥と一緒に行動することもあります。



アカネズミ (B 地点)

冬越しに備えてか、ドングリの様なものを運ぶ姿が見られました。



オクモミジハグマ (C 地点)

山地の日陰に生える植物です。「ハグマ (白熊)」とは、兜などの飾りに使われるヤクの毛のことです。



イボクサ (A,B 地点)

湿地を好む植物で、A,B 地点の田んぼの周りで複数見られました。



マタタビ (C 地点)

C 地点の林縁部で数多く実をつけていました。熟すと橙色になります。

3) 空土★生きものコラム ～シカの増加と森について～

8月から9月にかけて、空土ファームに隣接する森の中に、「自動撮影装置」という、動物の体温を感知して撮影を行うカメラを設置しました。その結果サルやイノシシ、タヌキなど、様々な生きものが森を利用していることが分かりました。その中で、一番多くカメラで記録された生きものは、ニホンジカでした。

実は、ニホンジカは全国的に急増していると言われており、平成27年の環境省の調査では、本州以南でおよそ304万頭（平成23年度では約265万頭）のニホンジカが生息しているとの推計が出されています。では、実際にニホンジカが増えすぎると、どのような影響が出るのでしょうか？

まず考えられるのは、我々人への影響です。農林水産省によると、農作物への獣害被害のうち、およそ3割以上がニホンジカによるものとされています。さらに我々人間だけでなく、他の野生動物に対する影響も大きいです。例えば、シカは木の皮を食べ、枯らしてしまうこともありますし、さらに森の下草をほとんど食べてしまうため、多様な生きものが棲める環境を奪ってしまうこともあります。

では、現在シカに対してどのような対策が取られているかについてですが、①ある程度の狩猟圧をかけシカの個体数をコントロールする、②農作物や緑地のまわりに電気柵などをかけ、侵入を防ぐ、などの対応がとられています。ただ、ハンターの高齢化など、今後のシカ対策は大変難しい状況にあるといえます。過疎化が進む地方でどのようにしてシカと付き合っていくか、これからの日本の課題の一つとなっています。



ニホンジカ (C地点)

3. 調査結果

表. 調査地内で見られた生物種(草本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	コケオトギリ	○			
A	イボクサ	○			
A	アメリカタカサブロウ	○			
A	トキワハゼ	○			
B	ミゾソバ	○			
B	ヒメクグ	Fr			
B	ウシクグ	Fr			
B	カワラスガナ	Fr			
B	アメリカセンダングサ	○			
B	ウナギツカミ	○			
B	イヌタデ	○			
B	イヌビエ	Fr			
B	キンエノコロ	Fr			
B	ナギナタコウジュ	○			
B	イボクサ	○			
B	コケオトギリ	○			
B	ヘラオオバコ	○			
B	オオバコ	○			
C	チカラシバ	Fr			
C	オクモミジハグマ	○			
D	コセンダングサ	○、Fr			
D	ムラサキエノコログサ	Fr			
D	アキノエノコログサ	Fr			
D	イヌタデ	○			
D	キンエノコロ	Fr			
D	アレチウリ	○、Fr			
D	ツリフネソウ	○			
D	ヨモギ	○			
D	カナムグラ	○			
D	シロツメクサ	○			
D	オオニシキソウ	Fr			
D	コニシキソウ	○			
D	イタドリ	○			
D	クサノオウ	○			
D	ハキダメギク	○			
D	ゲンノショウコ	○			
D	クワクサ	○			
D	キツリフネ	○			
D	キケマン	○			
D	ヒナタイノコズチ	○			
D	ハナタデ	○			
D	オオケタデ	○			
D	キハマスゲ	Fr			
D	ノコンギク	○			
D	メナモミ	○			
D	タイアザミ	○			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(木本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	ノイバラ	Fr			
C	マタビ	Fr			
C	ツリバナ	Fr			
C	サンショウ	Fr			
C	オニグルミ	Fr			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	ミヤマアカネ				
A	アキアカネ				
A	ヒメアカネ				
B	ミヤマアカネ				
B	アキアカネ				
B	オツネトンボ				
B	オニヤンマ				
B	アカタテハ				
B	モンキチョウ				
B	ホソヒラタアブ				
B	オンブバッタ				
B	ミドリヒョウモン				
B	ナツアカネ				
B	エンマコオロギ				
B	キタキチョウ				
B	ミヤマアカネ				
B	ヒメアカネ				
B	オンブバッタ				
B	キタキチョウ				
B	オニヤンマ				
B	ヤマトシジミ				
B	アキアカネ				
B	アメンボ				
B	ハネナガヒシバッタ				
B	ノシメトンボ				
B	キアゲハ				
B	ウラナミシジミ				
B	セイヨウミツパチ				
B	シオカラトンボ				
B	ミヤマアカネ				
B	ノシメトンボ				
B	ヒメアカネ				
B	オニヤンマ				
B	マツモムシ				
B	アキアカネ				
B	コノシメトンボ				
B	ハネナガイナゴ				
B	マツモムシ				
B	シオカラトンボ				
B	オニヤンマ				
B	オツネトンボ				
B	コミズムシ				
B	コバネササキリ				
B	クサキリ				
B	ジャノメチョウ				

表. 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	ホソミオツネトンボ				
C	エサキモンキツノカメムシ				
C	ヒメアカネ				
C	オオアイトトンボ				
C	ホソミイトトンボ				
D	アキアカネ				
D	ミヤマアカネ				
D	ヤマトシジミ				
D	ナツアカネ				
D	ヒナバタ				
D	オツネトンボ				
D	コノシメトンボ				
D	オオカマキリ				
D	ノシメトンボ				
D	クロヤマアリ				
D	ヒメアカネ				
D	アキアカネ				
D	ミヤマアカネ				
D	クロオオアリ				
D	セイヨウミツバチ				
D	エンマコオロギ				
D	キタキチョウ				
D	ノシメトンボ				
D	ヒナバタ				
D	ツマグロオオヨコバイ				
D	ウラギンシジミ				
D	シワクシケアリ				
D	クロコノマチョウ				
D	ウラナミシジミ				
D	モンシロチョウ				
D	カンタン				
D	オツネトンボ				
D	コカマキリ				
D	キイロスズメバチ				
D	セイヨウミツバチ				
D	ツマグロヒョウモン				
D	ウラナミシジミ				
D	イカリモンガ				
D	ナミハナアブ				
D	ナミアゲハ				
D	ヒナバタ				
D	ナツアカネ				
D	オツネトンボ				
D	コノシメトンボ				
D	オンブバタ				
D	キタテハ				
D	スジグロシロチョウ				
D	ノシメトンボ				
D	ウラギンシジミ				
D	ホソミオツネトンボ				
D	ツマグロオオヨコバイ				
D	アオバアリガタハネカクシ				
D	オオカマキリ				
D	ベッコウハゴロモ				
D	ナナホシテントウ				
D	ウリハムシ				
D	カンタン				
D	オオヒゲナガハナアブ				
D	ウラギンヒョウモン				
D	ハネナガフキバタ				
D	トゲカメムシ				
D	オオキイロマルノミハムシ				
D	マユタテアカネ				
D	ツマムラサキセイボウ				

表. 調査地内で見られた生物種(クモ類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	オオトリノフンダマシ				
D	ムツボシオニグモ				

表. 調査地内で見られた生物種(両生類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	ヤマアカガエル				
B	ニホンアマガエル				
C	ヤマアカガエル				
D	ニホンアマガエル				

表. 調査地内で見られた生物種(爬虫類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	ヒバカリ				
D	アオダイショウ				
D	ヤマカガシ				
D	ニホントカゲ				

表. 調査地内で見られた生物種(鳥類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	ホオジロ	c			
B	ハクセキレイ	v			
B	モズ	c			
C	キジバト	s			
C	コゲラ	c			
C	シジュウカラ	c			
C	ヤマガラ	c			
D	ヒヨドリ	v			
D	キジ	v			
D	モズ	c			
D	ホオジロ	c			
D	カワガラス	v			
D	トビ	fl			
D	キセキレイ	v			
D	エナガ	c			
D	セグロセキレイ	v			

v:目視 c:地鳴き s:さえざり fl:飛翔 fd:採餌

表. 調査地内で見られた生物種(哺乳類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	アカネズミ				
C	ニホンジカ		自動撮影装置		
C	ニホンザル		自動撮影装置		
C	ホンダタヌキ		自動撮影装置		
C	ニホンリス		自動撮影装置	要注目種	
C	ニホンイノシシ		自動撮影装置		